

	シリーズ名	大阪市における南海・東南海地震被害想定と医療体制の地理的分析
	氏名・所属・役職	山本 啓雅・医学研究科 救急医学・准教授
<p><概要></p> <p>大阪府では災害拠点病院、市町村災害医療センター、災害協力病院を整備し、大災害に備えている。しかし、実際の災害におけるこれらの病院へ来院する患者数や、被害状況、病院へのルートの損壊状況などはわかっておらず、大阪府全体として大災害に対応できるかは明らかではない。</p> <p>そこで、大阪府や大阪市が所有する南海・東南海地震に関する様々な被害データと、大阪府災害関連病院の情報、さらには流動人口データや道路などの情報を、GIS（地理情報システム）に展開して解析する研究を行っている。</p> <p>患者さんの被害データを割り出すためには、被害状況に加え道路の情報、人口の情報などの日常の情報も必要である。この研究により、災害医療対応の問題点が明らかになり、今後の災害医療体制の改善につなげることができると考えられる。</p> <p><アピールポイント></p> <p>災害対応病院の偏りや病院へ行くのがどれほど困難になるかの地域差を明らかにすることにより、今後の災害計画の改善に大きく役立てることができる。また、このような研究方法は、大阪市以外の地域にも、あるいはどのような災害にも適応することが可能なので、社会に広く波及する効果が期待できる。</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>様々な種類の災害、様々な地域における災害への応用</p> <p><関連する知的財産権・引用文献・学会発表など></p> <p>今後、学会発表予定</p> <p><関連するURL></p> <p>http://ocu-ccmc.jp/</p> <p><他分野に求めるニーズ></p> <p>Big Data の使用による、詳細な人口動態の解析があれば、被害状況についてさらに詳しいデータを得ることができる。また、これらの情報を Web GIS に展開できれば市民にとっても有益な情報となる。</p>		
キーワード	災害医療、GIS（地理情報システム）、被害想定	